

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	百貨店（販売促進）	来客数の動き	・当店は段階的な店舗のリニューアルオープンを行っており、これまでみられなかった客層が来店している。加えて、当県の新型コロナウイルス新規感染者数が減少しているため、来客数が増加している。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除により、商店街への人通りが徐々に回復している。慎重な行動を心掛ける人もまだ多いが、気温も急に下がったことから、季節物の動きに期待をしている。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・依然として夜間の来客数は少ないが、自粛期間が明けたことにより、開店祝い等の商品を購入する人が増加した。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・飲食店への時短要請が全面解除され、第6波が到来する前に、金を使おうという気持ちになっている。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・コロナ禍以前の水準までには回復していないが、緊急事態宣言が解除されたことにより、客足が徐々に戻ってきている。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、来客数がやや回復基調にある。
	○	コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除されたことにより、少しずつ夜の繁華街に人が増えている。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことで、来客数が増加している。飲食店の営業も再開しており、新型コロナウイルス発生前の水準までには回復していないが、3か月前と比べると状況は各段に良くなっている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、客が少しずつ戻ってきている。急に寒くなってきたことから、冬物の動き出しが例年より早くなっている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・依然として平日は客が少ないが、週末は客足が戻っており、コロナ禍が収束に向かっていると感じる。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・団体旅行が回復しておらず売上は例年の3分の1程度であるが、緊急事態宣言の全国的な解除により、集客は上向きである。
	○	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・人の動きがやや良くなっている。
	○	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・全国的に緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除され、ビジネス客を中心に旅行需要が増加している。また、ネット経由での予約が増加している。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・平日の人通りは依然として少ないが、時短営業が終了したことで、週末の夜は人出が少し増えてきた。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が解除され、街中の店も少しずつ営業を再開しており、週末の夜には人出が増加している。遍路客の仕事も少し入ってきており、以前より状況は良くなっている。
	○	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・来客数は減少しているが、売上は堅調である。景気が良くなればレジャー等の外出により来客数は減少する傾向にある。
	○	通信会社（社員）	それ以外	・当県の新型コロナウイルス新規感染者数が一時期と比べると大幅に減少しており、街中の人の往来も増加している。また、10月より訪問販売を再開したため、契約者数が伸びてきている。
	○	観光遊園地（職員）	来客数の動き	・当県独自の新型コロナウイルス警戒レベルが下がり、飲食店等への時短要請が解除されたことで、来客数が増加している。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことにより、来客数が増加している。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大防止の規制が緩和され、経済団体の会合やイベント等が徐々に始まってきた。

	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減したこともあり、週末を中心に来街客が増加している。しかし、平日の夕方以降の飲食店にはまだ客が戻ってきていないため、引き続き感染拡大の予防に努めていきたい。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が完全に沈静化したのか、第6波が到来するのかが予測できない。消費行動が新型コロナウイルス発生前の状態にすぐ戻るとは思えず、また、新たな行動変化が起こる可能性が高い。第6波が来た場合は、多くの業界が限界を超えるのではないだろうかと思う。
	□	一般小売店 〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・飲食店の時短営業が終了しても、客はなかなか戻ってこない。納品量も減少したままの水準で推移している。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・10月に一部の商品が値上がりしたことで、客単価の上昇につながった。また、来客数は引き続き増加したままの状況が続いている。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・当県独自の感染警戒レベルが下がったことにより、状況が改善しつつある。しかし、業績の回復にすぐ反映されるわけではなく、また、コロナ禍で客の購入選択肢が広がったため、来客数が前々年比で大幅に減少したまま戻らない。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月の前半までは厳しい状況が続いたが、後半からは気温が下がったこともあり回復基調にある。しかし、依然として新型コロナウイルス発生前の水準までは回復していない。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・黒物家電やパソコンを中心に販売が落ちているが、白物家電の売上が伸びており、全体としては変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	それ以外	・飲食店への時短要請が解除されたが、客は戻っていない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注台数は今月も前年を上回る水準であるが、新車登録は今月も大幅に遅れており、納車までに長期間を要していることから売上は減少している。
	□	その他専門店 〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が収束に向かっているとはいえ、来客数は依然として少ない。
	□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・来客数は増加しているが、売上の増加には至っていない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少したが、客の様子には特に変化がない。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、外食や外出に伴うリベンジ消費が発生している。内食需要が減少しており、新型コロナウイルス特需が薄れてきていると感じる。
	▲	スーパー（財務担当）	単価の動き	・客が再び外食に戻りつつあり、内食需要が減少している。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・自粛が緩和傾向であることを受け、住宅地に立地している店舗では来客数が減少している。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は、前年比では5%程度のマイナスであるが、前々年比では20%程度のマイナスとなっている。まん延防止等重点措置の期間は落ち込みが大きく、依然としてアパレルに対する消費意欲は上がっていない。
	▲	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・来客数の伸びが悪く、気温も高い日が続いたため、季節商材の伸びも悪い状況である。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・半導体不足と東南アジアからの部品が入荷しないため、新車の納期が不透明となっている。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大への不安から、外出自粛が依然として続いており、娯楽遊行やレジャー業界への人流は大きく減少している。ワクチン接種の実施が拡大しているが、客の出控えの意志が強く売上高は減少している。
	×	乗用車販売店（役員）	それ以外	・メーカーの生産調整が大幅な減益要因となっている。
企業動向	◎	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上状況を確認したところ、上昇の兆しが出ている。

関連 (四国)	○	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売市場価格は、10月中旬まで低迷が続いたが、10月下旬には産地の切り替わりや新型コロナウイルスの新規感染者数減少を受け、回復の兆しが見えてきた。このため、品目によっては価格への反映もみられるなど、明るい兆しはみえつつある。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月から雑貨専門店やアパレル小売店、インテリアショップ等の取引先からの受注が増加している。一方で、観光地の小売店からの受注は増えているものの以前ほどではない。この1年の推移をみると、新たにネット注文と温浴施設からの発注が活発で、客の消費志向やライフスタイルに大きな変化があったと感じる。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大きく改善した。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加した。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー関連の事業については、特にバイオマス部門で動きが大きく、売上が増加している。
	○	建設業（経営者）	それ以外	・公共事業が堅調に推移しており、これまで自粛していた懇親会や勉強会、講習会、レク活動なども再開している。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が解除されたことで、人の動きが一気に増加しており、景況感は好転してきている。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、景気が好転している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各国政府の経済対策により、市場マインドは上向きつつあるものの、地域的なばらつきが大きく、全体として本格的な需要回復には至っていない。
	□	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文が落ち着いている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の引き合いはあるが、当社に合う適当な物件は少ない。
	□	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・前月と変わらず、海外向けの輸出が中心の大手企業への販売数量は好調を維持しているが、国内向けが中心の企業への販売数量は不調のままである。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているものの、社外イベントの開催状況などは見通しが不透明であるため、具体的な変化はまだ感じられない。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先からのヒアリングや提出資料によると、足元の売上や利益の動向に回復はみられず、厳しい資金繰り状況は続いている。
	▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が収束傾向で推移しており、行動制限等の感染拡大防止施策等が解除されたことで、都市部では人流が戻り次第に経済活動が再開しつつあるようにみえる。しかし、発着する取扱物量の状況等の物流動向をみる限り、地方においてははまだ回復を実感できない。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・一時的なものであるが、新型コロナウイルス関連の特需が旺盛である。
	○	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・中途採用の求人数はこの1か月で増加傾向にあり、幅広い業種で新規求人数が増えつつある。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、企業活動が再開し始めてきている。
	○	職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人数や新規求人倍率が僅かに減少しているが、紹介件数や就職率は上昇している。
	○	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・有効求人倍率も前年同時期と比較して向上している。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・学生の内定状況は、前年度と同じ水準まで回復してきている。
	□	—	—	—
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているものの、派遣の依頼数が減っており景気が悪くなっている。
	×	—	—	—